



安曇野市

第12号

農業委員会だより

写真の記事

収穫の秋を迎え安曇野市の各地では冬に向けた野菜等の収穫が行われました。

上段写真は野沢菜の収穫風景（堀金烏川地区）

下段は牧大根の収穫風景（穂高牧地区）



● 主な内容 ●

遊休農地の解消に向けて	2
三郷サラダ市のご紹介	3
がんばる農業者	4～5
新田安曇野生産組合の生い立ちと現況	6
農地の売買なら任せて安心農業開発公社	7
旬の一句おふくろの味	8

農政の動き

地球環境の温暖化による自然災害が世界各地で多発し、日本も東日本大震災や原発事故等甚大な被害の影響が出ている中で、今最大の政治課題は、TPP交渉参加についてです。

日本にとって農業は食の安全安心を保障する生命産業であります。

本当に交渉参加により日本農業の再生が出来るのか、担い手等人材確保や土地の利用集積による規模拡大によって対応し、日本農業が自立することが出来るのかいささか心配です。関税が撤廃されれば、食料自給率が14%へと低下し、さらなる食糧危機に向かうとの見通しもあり、幾多の問題を含んでいるTPP交渉参加が本当に必要なのであるのか、地域農業を守り地域社会の生活が幸せになれるかが問われている問題です。

会長 板花 守夫

発行日／平成23年12月7日

編集と発行／安曇野市農業委員会

安曇野市三郷明盛4810番1 tel0263(77)3111

農業委員会事務局ホームページアドレス

<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>

申請書、届書のダウンロードができます。



三郷サラダ市のご紹介

組合長 三澤 勇

三郷サラダ市組合は、地域活性化促進事業で、蕎麦、味噌、饅頭等の加工食品販売が中心の直売所として発足し、今年で12年目を迎えています。今年度より法人化して「株式会社 三郷サラダ市」となりました。三郷地域は、販売する農産物が豊富にあり、販売品の九割は、地元産です。特に果物類は、中信平一番と自負しています。



伸びてきています。リンゴのシナノスイート、秋映（あきばえ）、シナノゴールド等中生種ができて順調に推移してきました。三郷地域は果物産地のため、野菜類はどうしても寂しいものがありますが、ビニールハウスを利用して冬場の青物栽培に努めています。サラダ市組合は、現在組合員数140名で事業活動を実施しています。組合員の平均年齢は53歳で、県下一若い直売所です。それだけに活気がみられます。

2年前よりPOSシステムの導入で一日2回売り上げがメールにて組合員に届くようになっていきます。午前中ほどの位売れたのか組合員にメールで配信され、その状況によって追加販売ができるか判断し、狭い売店を有効利用しています。

特にリンゴの販売にコンテナを使用している直売所は、日本全国でおそらくサラダ市だけと推測されます。さらに、氷蔵庫、冷蔵庫を利用して梨、リンゴの長期販売を行っています。試食販売に力を入れ、お客様に納得して買っていただくようにしています。



組合員が元気にならなければ、農産物の品質も向上しません。組合員にとっては納得のいく価格で販売ができることが直売所の最大のメリットです。又お客様にとっても新鮮で組合員の顔がみえる物を買うことがメリットです。

遊休農地の解消に向けて

農地パトロール出発式

残暑が厳しい8月31日、安曇野市堀金地域の「旬の味ほりがね物産センター」の駐車場において、長野県農業会議、安曇野市農業委員会等の主催により、平成23年度の「長野県農業委員農地パトロール出発式」が、中信地区の農業委員等約100名が出席し、開催されました。



女性農業委員による出発宣言

10台からなる軽トラ隊の行進や啓発チラシ等の配布が行われ、その後遊休農地の現地確認が行われました。安曇野市では農業委員等の活動により、平成21年度には、15ha、22年度には23haの遊休農地の解消がみとめられました。しかしながら平成23年4月現在約55haの遊休農地が残っています。この解消に



挨拶をする板花会長

地利用の低下、農村景観への影響等が懸念されている状況を踏まえ、毎年農業委員会が行う「農地パトロール」活動と遊休農地の解消について、広く農家や住民の皆様へPRするため、開催されたものです。出発式では、主催の長野県農業会議の石田治一郎会長の挨拶から始まり、女性農業委員による農地パトロール隊の出発宣誓を行い、



軽トラ隊の出発

あたっては、後継者の不在、鳥獣被害、面積が小さく形状が悪い等の解決しなければならぬ課題が数多く残っています。今後も国や安曇野市独自の補助事業等を活用しながら農業委員会・市・JA等と土地所有者が協力しながら、遊休農地の解消に向けた取り組みを進めて行きたいと考えています。



遊休農地の現地確認

がんばる農業者

就農 して2回目の収穫が無事終わり、来シーズンに向けて田の耕起作業を毎日行っています。

私は、明科の宮中区で大規模農業を目指す農家の後継者として従事しています。高校卒業後、自動車整備士の国家資格を目指して進学、卒業後自動車ディーラーに整備士として勤務しました。その間大変厳しい社会生活を体験しました。親元を離れて両親がやっている農業をみて、国の根幹になる農業はこれからの人生にとってやりがいのあるものだと思うようになりました。それは単に安全・安心な食料を生産するだけでなく、人間が生きていくのに必要な水や大気などの環境保全、生態系保全、保健休養環境の確保など生産活動を通じて多面的な役割を果たしていることです。



この ような気持ちから両親に農業を継ぎたいと相談したところ、農業を取り巻く環境の厳しさを考えると賛成できないと強く言われました。それでも

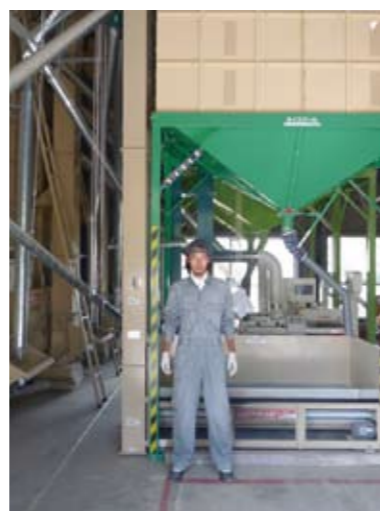
ともりの
池上 倫敬 (24) さん
(明科 宮中区)

経営面積
所有地、借入地……………21ha
受託作業…………… 3ha

作付作物
水稲、大豆

将来 の夢ですが、形として描くことはできませんが、先人達が苦労して守ってきた農地を、毎年黄金色に染めることを続けられやがて胸を張って語る日が来ると信じています。

私の気持ちを訴えて説得しました。近年当地区の農家も高齢化・後継者不足で耕作が困難となっている状況が増えていきます。そのような中で、農家のお役に立てればと親が始めた農地を借りての農業は7年が経過、経営規模は件数で60件を超え面積も大規模になってきました。これからの経営の効率化や省力化を考え大型機械の導入など設備投資も進めました。技術的な勉強は、まだ不足していますが毎日の経験を大切にすることや必要な知識・技術を早く吸収し前進したいと思っています。親からは、一年一作、同じ案件は二度とない、だから俺もお前も毎年1年生、焦ることはない励まされています。



がんばる農業者

私は 今年で就農6年目になります。就農するまでは、農業とはかけ離れた道を歩んでいました。今は、作業着姿が似合っていると思いますが、学生時代は野球に情熱を燃やし白球を追い続けていました。高校卒業後は、スポーツトレーナーを目指し東京の専門学校へ進学しました。この時数年後にトラクターに乗っているなんて想像もしませんでした。

就農 するきっかけは、専門学校に通っているときに暮らした東京の空気や水などを取り巻く環境が自分には合わず、一生暮らす場所ではない、地元を離れてはじめて安曇野の良さがわかりました。その様なことから、安曇野での就農を決意しました。



就農 1年目の頃は、父親に言われた。しかし、一年のお米作りを振り返って「自分で育てたお米を食べてもらい笑

かずよし
宮澤 和芳 (26) さん
(三郷 中萱区)

経営面積
所有地、借入地……………27.8ha
受託作業……………63ha

作付作物
水稲、小麦、大豆、そば

近年 は安全・安心が、キーワードとなり品質管理は厳しくなる一方、お米の消費低迷、米価下落、資材費の高騰などから農家の経営を圧迫しています。そんな状況でも「自分の育てたお米を食べてもらい、そして笑顔になってほしい。」それが一番の気持ちです。おいしいお米作り、日本一のお米作りを目指してこれからもがんばっていききたいと思っています。

顔になってほしい。」と思いきだわりのお米作りを少しずつ始めました。



新田安曇野生産組合の生い立ちと現況

組合長 信楽 二三男

認定農家を中心に行われていた協同作業への取り組みが当組合の母体であり、営農組合の設立を目的として平成21年に準備委員会を発足、新田区農家80戸に意向調査の結果28戸に同意いただき、営農組合としての規定等を半年に渡り協議を行いました。しかし、地域営農組合の設立要件である経営面積20haに届かず、営農組合の設立



は断念せざるをえませんでした。ただし、準備委員会の皆の熱意により思い切って平成21年9月11日農業生産法人として設立しました。初年度の作付面積は18ha、作付け品目は水稲、大豆、麦の輪作でしたが、その後のジュース用トマトの導入により人手も多大となり労務面で苦勞しました。当初は個人所有の農機具を最大限利用する予定でありましたが、個人使用と組合使用の調整困難となったため、補助金と借入金により普通型コンバイン、八条植田植機を導入し、作業効率の向上を図りました。過去2年間の収支は天候不順により採算面は思わしくありませんでしたが、採算が不調な品目のスリム化や経営面積拡大に努力し、利益配分ができる体制にしたいと考えています。現在組合員より借

用している大型農機具、脱穀機等も老朽化し、更新期を迎えていますので順次更新予定です。資金づくりが大変ですがここが頑張りどころ、施設の一層の増強をはかりたいと考えています。兼業農家が多い当組合の作業については、組合員全員参加を目標に自主申告で対処してきました



が、3年目を迎え参加者の固定化が目立ち始め、作業スケジュールに支障を来す様になりました。その対処方法として、自主申告を把握後、申告のない組合員を対象に当番を割当てることにより、参加効率の向上対策を考えています。定年後の組合員の参加や若者の休日等の参加を期待していますが思うようにいかず苦勞しているのが現状です。今後機会のあることに理解を持ってもらう様に努力したいと考えています。今後はさらなる付加価値品目を模索すると共に、経営面積の拡大を図るよう努力し、全組合員が元気でお互いの絆が深まる様心がけて行きたいと思っております。最後に東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りし、一日も早い復興を願っています。

安曇野市農業施策に

関する建議書を提出

安曇野市農業委員会では、9月30日の定例総会終了後、会長、会長職務代理、副会長の3名が安曇野市役所本庁舎に宮澤市長を訪ね、「平成23年度安曇野市農業施策に関する建議書」を提出しました。

建議書は、「農業基本対策」、「地域振興・地産地消対策」、「担い手・経営安定対策」などの十一項目から構成され、この内容を市が現在策定中の「安曇野市農業・農村振興計画」や平成24年度予算編成に反映し、より積極的な施策を展開していただけるよう、要請したものです。

今後、農業委員会では、農業者の代表機関として、農業の抱える諸課題に積極的に取り組み、地域産業の一翼としての農業を確立・発展させるため引き続き努力していきたくと考えています。



建議書を宮澤市長へ手渡す板花会長

農地の売買なら任せて安心

農地を売りたい方は……

●税金が安くなります●

- ①譲渡所得が800万円まで特別控除されます。
(相対の場合は譲渡所得税の特別控除はありません。)・買入協議制度を活用した場合は、1,500万円まで特別控除されます。
※農地売却代金の3%若しくは3.6%が公社手数料として別途かかります。

計算例	相対の売買	公社を活用した売買
農地売却代金	1,000万円	1,000万円
取得費+譲渡費	50万円	50万円
特別控除額	0万円	800万円
課税所得額	950万円	150万円
税金(20%)	190万円	30万円

- ②適正な価格で契約できます。
- ③土地代金は契約・登記後速やかに支払います。
(注) 公社が売買・貸借する農地は、農業振興地域の農用地区域が対象となります。

お問い合わせは

財団法人長野県農業開発公社

本所：〒380-8570 長野市南長野字幅下 692-2 電話：026-234-0777 FAX:026-234-0796
E-mail: agri21@janis.or.jp http://www.janis.or.jp/agri-or/kousya/
公社支所(各地方事務所内にあります。)または最寄りの農業委員会へご相談ください。

農地を買いたい方は……

●税制の特例が受けられます●

- ①登録免許税 13/1,000が8/1,000に軽減されます。
- ②不動産取得税 取得した土地評価額の1/3相当額が控除されます。
- ③安心して農地を買え、計画的な規模拡大ができます。
- ④一定期間公社より借受後、取得することもできます。
※農地の売買については、公社手数料等がかかります。

農地を売ろうか。規模を縮小しようか。

農地を増やして、経営規模を拡大したい!

公社へお気軽にご相談ください。



全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

みなさんの購読のお申し込みをお待ちしております

— 全国農業新聞を購読してみませんか —

全国農業新聞は

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。

「週刊」の時間を生かし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。

さらに、全国47都道府県にある支局の県版・地方版の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

発行日・購読料

毎週金曜日発行
月600円〔送料、税込み〕

申し込み方法

農業委員会で随時受付を行っていますので、問い合わせてください。

おみくろの味



- 材料** (4人分)
- 卵黄 1個
 - 砂糖 大さじ2杯
 - スキムミルク 大さじ4杯
 - 塩 ひとつまみ
 - チーズ角切り 60グラム
 - 白ごま 20グラム
 - 揚げ油 適量
- 作り方**
- ① さつまい芋は蒸して皮をむいてつぶす
 - ② ①にAの材料を入れて混ぜ合わせる。
 - ③ ②を十二等分してラップを広げてチーズを中に入れ団子に丸める。
 - ④ ③の団子にごまをつけて油で揚げる。
- 白井史子委員

さつまい芋のごま揚げ団子

編集後記

冬の使者 暁の舞
紅葉が見頃を迎えた10月29日久しぶりに豊科田沢の犀川白鳥湖に冬の使者コハクチョウを見に行く、冬の象徴コハクチョウの数が増えてきた。29日までに飛来したのは26羽、この日も早朝からカメラを構える人の姿もあった。
コハクチョウ達は午前6時頃に北方から舞い降りると羽をついたり草をついばんだり、伸び上がるようにして広げた羽が朝日に当り純白に輝く姿はカメラマンのシャッターチャンスだ。昨年と同じ日と比較して少ない様だが「ピークは来年の1月下旬になるのではないか。」とアルプス白鳥の会の話だが、初飛来が昭和59年今年で27年目のシーズン、安曇野を訪れる県内外の人達が日増しに多くなりそうである。

編集委員長 望月 和榮

旬の一句

川霧に 沈む安曇野 冬近し	千し柿の かわむくばばの 背に夕日	田植済み 北風寒く 植えた苗 思案にくれる 水衣の中	菓ロール 田にころがるや 十三夜	作物の 仕上がり順調 あと価格	川霧に 沈む安曇野 冬近し
堀金 勇一 委員	藤原 正三 委員	植原 義明 委員	齊藤 彰久 委員	池上 洋助 委員	堀金 勇一 委員